
幸せな二体

ボーン

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幸せな二体

【Nコード】

N54030

【作者名】

ボーン

【あらすじ】

肉まんを買いに出かけた夜の散歩で、男女は眩しい光に遭遇する。一方、スーツ姿の人間達は、蚕の繭によく似た形状の白いカプセルを見守っていた。

狭いカプセルの中には男女が一人ずつ閉じ込められている。それまでの経緯はこうだ。

さみー。あつたかいもん食べたいねえ。なんか作ろつか？いや、今すぐ食べたい。じゃあ肉まんでも買いに行く？行くか。

そんな流れでコンビ二まで歩いて五分の夜の散歩へと繰り出した二人を捕らえたのは、妙な空間だった。

彩は女子に特有の月に一度故の目眩だと思ったし、崇は改造車の過剰なライトだと考えた。

目を開いているのもきついほどの真っ白な光が二人を包みこみ、崇が彩をかばって前にでたところで、二人は意識を失った。

「ねえここ、どこだろう。病院……じゃ、ないよね。」

「ってか、狭いなー。二人分だったらかプセルホテルでもこれより広いだろ。」

なんとも不思議な空間だった。身体が密着している割には窮屈さもそれほどはない。

「ねねっ。これって空気じゃない。水みたい……。」

彩が顔にかかる紙を掃おうと右手を泳がせると、透明だった空間に波紋のような円状の筋が広がった。

「うわあつ。凄いな。」

確かに身じろぎする度に、そこかしこで小さな光の筋が生まれては広がり、干渉しあい、消えていくようだった。

生まれて始めてみるその光景に二人はしばし見とれた。そして、はつと気付いたように壁を殴打したが、周囲を囲うこの物体はびくともしなかった。

「これが噂のキャトルミューティレーションってやつだったりして。」

「ええつ、なにそれ。あ、やっぱ言わなくていい。なんか嫌な予感がするから。って、あれ？」

気のせいかな、先ほどよりも声が大きく聞こえた気がした。

「あれ、なんで。」

さつきより声が近くにある。それと同時に、壁に向けている背に、ヒヤッとしたものを感じた。それはどうやら祟もいっしょだったらしく、うおつという声が、正面から聞こえた。

背中に当たる冷たさは、身体の飛び出した部分から、奥まっている部分へと移ってきている。背骨、肩甲骨、肩と、妙な感触が続く。

そしてその次は、膝だった。

背の冷たさとはうってかわり、膝に感じるのは湿り気を持った温かさだった。

段々と部屋は狭まり、泥団子が丸められるように、二人の身体は境界をなくしていった。そしてやがて、一体となった。

白いカプセルの100メートル上空にある大きな窓から、スーツ姿の人間達が身を乗り出している。

彼らは蚕の繭のように見えるその物体から、羽化した成虫がでてくるのを待っていた。

「私達の手によって完全生物となった彼らが、一番最初に何をするのか。これは実に興味深い。」

「動物実験では幾ら成功しても、言葉を聞く事ができませんからね。」

「ほら見てください。シュミレーションの時間通りに出てきましたよ。」

カプセルの上部に位置する蓋が、内側から持ち上げられる。最初に見えたのは、空へと伸ばされた白い手だった。

ゆっくり、ゆっくりと、全身が露になっていく。上方の人間達が息を呑んで見守る中、その白い裸体は地へと降り立った。

彼、否、彼女と呼ぶべきか、つまりは一体の人間であるその人は、キョロキョロと辺りを見回した。何かを探しているようだった。その口はなにかを呟いている。

「おい、なにやってる。早くマイクで音を拾え。」

「はい、感度を上げますので音量にご注意下さい。つまみを右にひねるとボリュームダウンできます。」

彼らの耳に、小さな音が入ってきた。

「寂しい……。」

彼らは顔を見合わせる。

“完全体”には程遠い言葉だった。自らの耳を疑う者もいる中、もう一度、一体の言葉が響いた。

「寂しい……。」

この言葉に与えるべきは男か女かはたまたもう一体の“完全体”か。実験方針を見直す必要があるだろう、と彼らは考えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5403o/>

幸せな二体

2010年10月27日23時31分発行